

Web ベースで監視カメラ映像の視聴・管理が可能 救急・消防向けクラウド型監視カメラシステムの販売を開始

株式会社ベストサポートシステムズ（本社：東京都中央区、代表取締役：石塚 雄剛）は、救急現場での課題解決の対応策の一つとして、監視カメラのライブ・録画映像を Web ベースで視聴や管理を行うことができる「救急・消防向けクラウド型監視カメラシステム」を 2017 年 9 月 23 日から販売開始いたします。

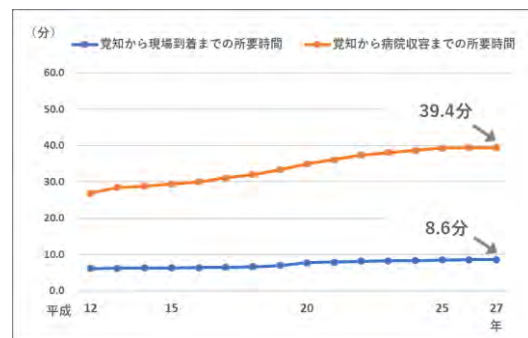
■救急・消防向けクラウド型監視カメラシステム構築の背景

毎年、消防庁で発表されている、全国の救急業務及び救助業務の実施状況を見ると、救急自動車による救急出動件数は 605 万 8,190 件（前年比 6 万 9,813 件増 1.2%増）、搬送人員数は 548 万 1,252 人（前年比 7 万 2,617 人増、1.3%増）となり、出動件数、搬送人員ともに過去最多を更新しており（図 1.1）、所要時間も増加傾向にあります。（図 1.2）¹

図 1.1 救急自動車による救急出動件数及び搬送人員の推移



図 1.2 現場到着所要時間及び病院収容所要時間の推移



救急需要の増大が見込まれる状況の中、救急業務を取り巻く課題である「メディカルコントロール」「インフォームドコンセント」の対応策の一つとして ICT を活用した、弊社(BSS)の「救急・消防向けクラウド型監視カメラシステム」を販売開始いたします。

¹ 東日本大震災の影響により平成 22 年及び平成 23 年については、釜石大槌地区行政事務組合消防本部及び陸前高田市消防本部のデータを除いた数値で集計している。また、各年とも 1 月から 12 月までの数値。

従来の画像伝送システムでは、通信環境の問題、セキュリティ対策にかかる設備設計・運用コスト、既存システムの有効活用、複数拠点による画像の共有等、すべてに対応できるシステムを構築することは膨大なコストが掛かるものと同時に利便性に欠けるものでした。

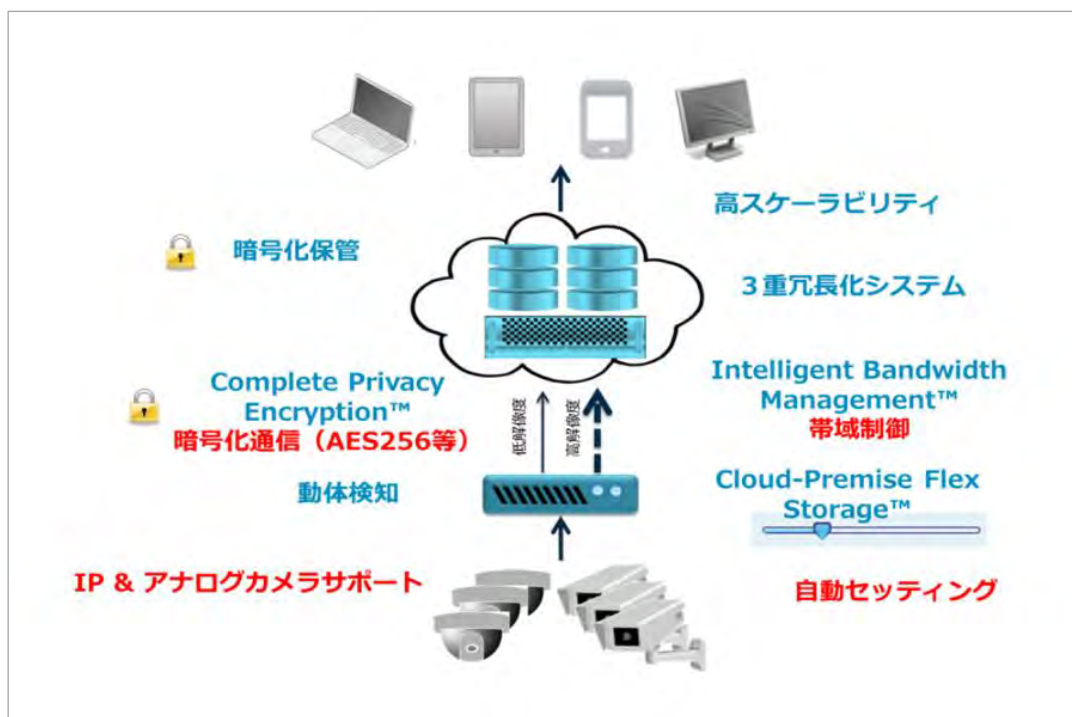
BSSの「救急・消防向けクラウド型監視カメラシステム」は、上記の問題を解決します。

■ 「救急・消防向けクラウド型監視カメラシステム」とは（図2）

監視カメラのライブ・録画映像を Web ベースで視聴や管理を行うことができるソリューションです。

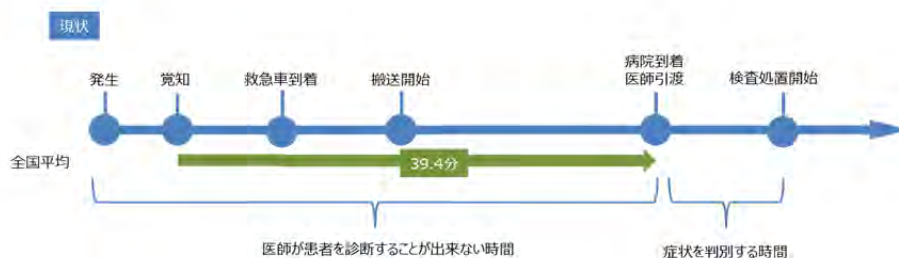
- ・ 100% ブラウザベース (IE、Edge、FireFox、Chrome、Safari)
モバイルインターフェース (iOS、Android) 対応
- ・ 各監視カメラメーカーの ONVIF およびアナログカメラに対応 (自動セッティング)
- ・ 利用ネットワーク帯域のコントロール
- ・ ネットワーク利用不可時のデータ損失なし
- ・ 保管/転送中のデータ暗号化
- ・ 録画データはデータセンターにて管理 (3重冗長化)
- ・ 複数箇所からのアクセス及び同時アクセスが可能
- ・ LTE 回線を活用したモバイル画像伝送を構築可能

図 2 救急・消防向けクラウド型監視カメラシステム



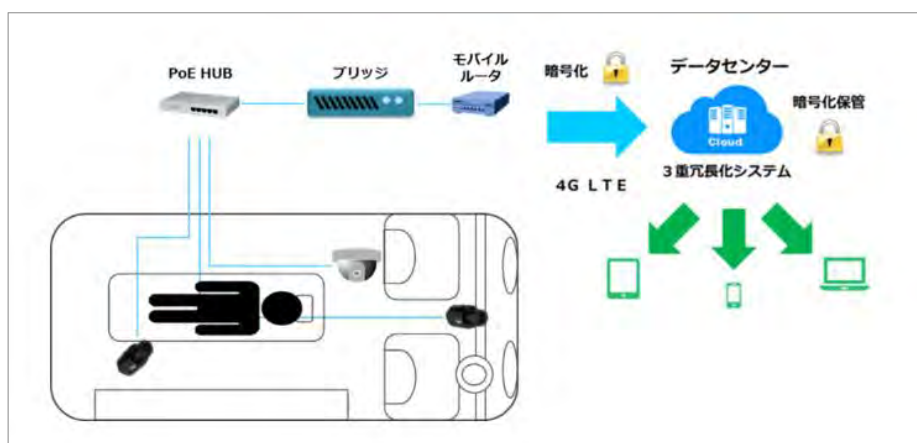
■活用方法

現在、通報から病院到着まで、全国平均で 39.4 分かかるとされています（出典：消防庁「平成 28 年版 救急・救助の現況」より）。その間搬送先病院へは救命救急士からの音声による患者情報報告がメインとなっています。

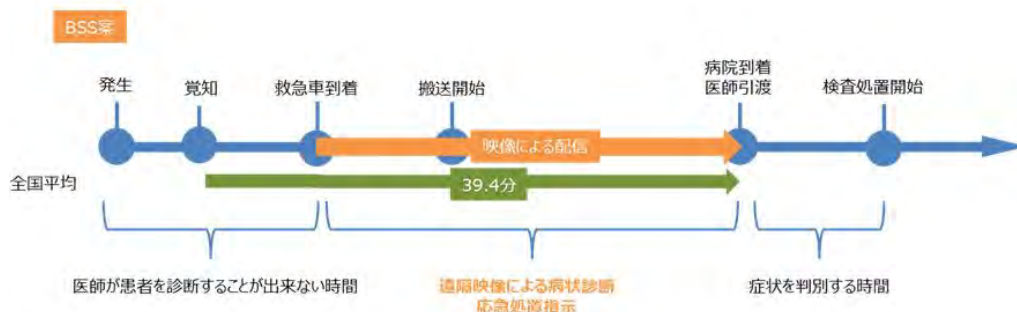


BSS のカメラシステムは、LTE 回線を利用し、救急車両に機器を設置するだけで、録画やライブ映像配信が可能となります。（図 3.1）

図 3.1 救急車両設置イメージ



クラウドシステムのため、複数箇所での映像が即座に確認できることにより、病院選定・病状診断・病院搬送までの医療行為等のメディカルコントロールに大きく役立つ新たな手段となります。



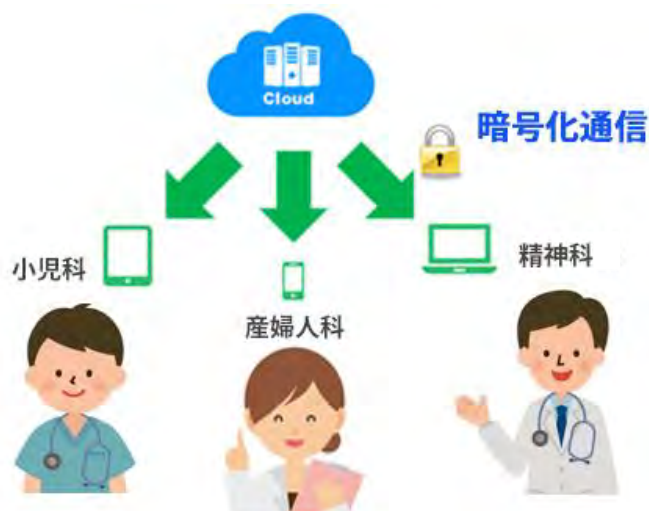
■本システムが活躍しうる理由

通常、遠隔監視システムを導入する場合、閲覧する拠点ごとのVPN構築や専用回線、固定IPアドレスなどの取得が必要になるなど、既存回線の契約見直しや各種設定変更などのシステムの再構成が煩雑です。

また、複数箇所から映像を確認する際に、監視カメラ側の通信帯域により、映像配信の表示が出来ない等の問題が発生します。

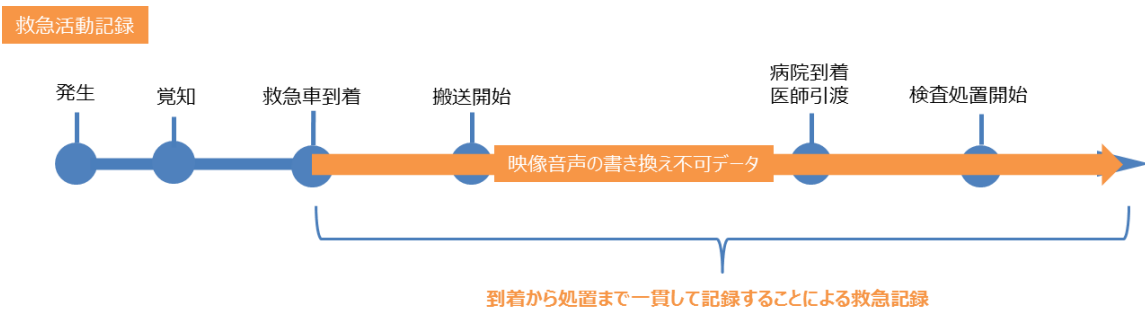
BSSのシステムであれば、前文に記載したコストを抑えることが出来ます。また、クラウドデータセンターを利用するため、監視カメラ側の通信帯域を抑え、なおかつ標準的なブラウザ（IE、Edge、FireFox、Chrome、Safari）とモバイル端末（iOS、Android）から複数箇所同時アクセスすることも可能なため、救急医以外の専門医（小児科・産婦人科・精神科医等）による連携も可能となります。（図 3.2）

図 3.2 複数同時アクセスイメージ



■ 映像データの役割と広がる活用シーン

救急救命活動の現場では、限られたスタッフだけでは症状によって医療行為の実施判断が難しい場合など、さまざまな課題を抱えています。また、インフォームドコンセントを補完する役割として、現場到着時から処置完了までの一連の映像・音声データをクラウド上で保管し、リーガル面・臨床面での役割を果たします。また、過去の映像を活用することで、救急業務のOJTに活用することも可能です。



■ 本システムのキーポイント

- ・ブラウザベースのシステムなので専用のシステムを組む必要がなく、高いセキュリティを維持しつつ、即座にいつでも、どこからでも画像の閲覧が可能
- ・データはクラウド上で最大10年間保管することが可能となるため、臨床、訴訟などあらゆる場面での利用が可能
- ・従来のシステムに比べコストを低減
- ・映像による患者確認のため、医師の指示や専門医の判断等、病状判断に活用
- ・過去の映像を活用した救急業務のOJTへの活用
- ・将来像として、プライバシーへの対策、音声データのデジタルタイムスタンプ及びテキスト化による改竄対策及び全体報告書の自動生成等

■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社ベストサポートシステムズ

担当連絡先 / 新宿支店 スマートソリューション推進グループ

TEL: 03-6709-8303

E-mail: desk@best-densetu.com